

## わからないときに

ルカによる福音書 9:51-62

イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。イエスは振り向いて二人を戒められた。そして、一行は別の村に行った。一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。

### 説教

わからない時にどのように応じるか？

わかったふりをする？無視する？反抗する？否定する？ありそうな反応です。わかったふりをしないで、保留にしておく、とりあえず判断を停止する、穏便な対応もいいかもしれません。

きょうの箇所は二つの出来事が記されます。

1) イエスを歓迎しないサマリア人にたいする弟子の反応、イエスの対応

## 2) 弟子志願の3人に対するイエスの対応

一つ目はサマリアで歓迎されない（否定？）事態になったので弟子たちが焼き滅ぼそうと提案したところイエスが「やめとけ」といさめた、というエピソードです。

二つ目は弟子になりたいという3名の志願者に対しイエスは否認して、弟子にしなかったというエピソードです。この二つのエピソードはどちらも「わからない」はなしです。サマリアで歓迎されないので「焼き滅ぼそう」と平気で言い放つ弟子、いさめるイエス、いきさつがはっきりしません。弟子志願者に無理難題？をおしつけて拒否するイエス、真意がわかりません。でも、とくに主日礼拝で朗読される選ばれた聖書箇所ですから福音としてきょうも世界中で解説、説教されます。

よくわからない福音を前にして「わからない時にどのように応じるか？」とひらめきました。そのようなときにどのような態度、対応をするのかを教えてくださいているのでは、と思いつきました。ヒントになったのは聖母マリアのエピソードです。

ルカの2章でイエスの出産の様子が描かれます。その時のマリアの心情が簡潔に記されています。

**マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。**ルカ 2:19

ヨハネの4章（カナの婚礼）のマリアはこのように対応しています。

**ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。**ヨハネ 2:3-5

マリアはイエスにぶどう酒がないと報告しますが、イエスは冷たく関係ないと言い放ちます。でも、マリアは召使にイエスに従うようにと言いました。

「心に納めて、思い巡らす」「そのとおりにする」イエスの言動に対するマリアの対応がヒントになります。マリアは「わかったふりをする？無視す

る？反抗する？否定する？」ではなく、「わかったふりをしない、保留にしておく、とりあえず判断を停止する」という対応をしました。

聖書を読んでもよくわからない時「わかったふりをしない」イエスの言葉がよくわからない時「心に納めておく」同じように自分の身におきるよくわからない出来事、因果関係がはっきりしない事、理不尽に思える出来事でも「わかったふりをしてシロクロをつけない」「とりあえず判断停止する」そんなときにはマリアの処世に学びましょう。聖霊の照らしに気づき、導かれますように。